

【整形外科研修プログラム】(選択4週間)

概要

整形外科は2年目の選択科として研修を行う。研修医は希望により1か月から6か月の研修期間を選ぶことができる。長期研修(4～6か月)と短期研修(1～3か月)が用意されており、救急医療、慢性疾患、基本手技、医療記録について、研修期間別に目標が設定されている。(研修期間:1～3か月の到達目標:◎、研修期間:4～6か月の到達目標:○)

I、救急医療

一般目標:(GeneralInstructionalObjective:GIO)

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を習得する。

行動目標:(SpecificBehavioralObjectives:SBOs)

1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
4. 脊髄損傷の症状を述べることができる。
5. 多発外傷の重要度を判断できる。
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
8. 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
10. ◎骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

II、慢性疾患

一般目標:(GeneralInstructionalObjective:GIO)

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・習得する。

行動目標:(SpecificBehavioralObjectives:SBOs)

1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫傷のX線、MRI造影像の解釈ができる。
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
4. 腰痛、関節病、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
5. ○神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
6. ○関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
7. 理学療法の処方が理解できる。
8. ○後療法的重要性を理解し適切に処方できる。
9. ○一本杖、コルセット処方が適切にできる。
10. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。
11. ○リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる。

III、基本手技

一般目標:(GeneralInstructionalObjective:GIO)

運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を習得する。

行動目標:(SpecificBehavioralObjectives:SBOs)

1. ◎主な身体計測(ROM, MMT,四肢長、四肢周囲径)ができる。
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる(身体部位の正式な名称がわかる)。
3. ◎骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。
4. 神経学的所見がとれ、評価できる。
5. ○一般的な外傷の診断、応急処置ができる。
 - (1) 成人の四肢の骨折、脱臼
 - (2) 小児の外傷、骨折
肘内障、若木骨折、骨端離開、上腕骨頰上骨折など
 - (3) 靱帯損傷(膝、足関節)
 - (4) 神経・血管・筋腱損傷
 - (5) 脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の習得
 - (6) 開放骨折の治療原則の理解
6. ○免荷療法、理学療法の指示ができる。

7. ○清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。
8. ○手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。

IV、医療記録

一般目標：(GeneralInstructionalObjective:GIO)

運動器疾患に関して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に起債できる能力を習得する。

行動目標：(SpecificBehavioralObjectives:SBOs)

1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴
2. 運動器疾患の身体所見が記載できる。
脚長、筋委縮、変形、(脊椎、関節、先天異常)、ROM,MMT,反射、感覚、歩容、ADL
3. 検査結果の記載ができる。
画像(X線像、MRI,CT,シンチグラム、ミエログラム)、血液生化学、尿、関節液、病理組織
4. 症状、経過の記載ができる
5. ○検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる。
6. ○紹介状、依頼状を適切に書くことができる。
7. ○リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる。
8. 診断書の種類と内容が理解できる。

経験目標

短期研修:

1. 入院患者の受け持ち5例以上
多発外傷の診療 1例
脊髄損傷の診療 1例
開放骨折の診療 1例
末梢神経障害の診療 1例
骨関節感染症の診療 1例
変形性膝関節症の診療 1例
変形性股関節症の診療 1例
関節リウマチの診療 1例
腰部椎間板ヘルニアの診療 1例

長期研修:

短期研修の経験目標に加えて入院患者の受け持ち10例以上

- 硬膜外ブロック 2例
- 関節造影、穿刺 2例
- 脊髄造影 1例
- 成人の四肢骨折、脱臼
- 大腿骨頸部骨折 2例
- 橈骨遠位端骨折 2例
- 肩関節脱臼 1例
- 小児外傷
- 肘内障 2例
- 上腕骨顆上骨折 2例
- スポーツ外傷
- 膝前十字靱帯損傷 2例
- 膝半月板損傷 2例

LS 方 略

(1)研修方法

初期研修2年目のうち、短期研修(4週～12週)または長期研修(16週～24週)を選択し研修する。

(2)入院患者受け持ち

研修医は指導医とともに病棟で患者を1～5名受け持ち、整形外科疾患について学ぶ。外来では、整形外科の基本的診察法、身体計測法、関節穿刺や創処置、ギプスなど基本手技を学ぶ。

(3)カンファランスや症例提示

整形外科カンファランスで、受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。また、専門医の指

導により、学会や研究会で症例を発表することがある。

(4)週間スケジュール

曜日	午 前	午 後
月	外来、病棟回診、手術	特殊検査、手術
火	手術	手術
水	外来、病棟回診、手術	手術
木	外来、病棟回診、手術	特殊検査、カンファランス
金	外来、病棟回診、手術	手術

E V 評 価

研修プログラム・指導体制の評価

- ①研修医が研修管理委員会にて意見要望を述べる。
- ②EPOC内のプログラム評価記入を検証して、臨床研修管理委員会通じてフィードバックする。
- ③年1回の無記名アンケートを行い、各診療科、施設での研修の評価と研修全般に関しての意見、要望を収集し、研修管理委員会に報告審理し、必要に応じてフィードバックする。
- ④EPOC、研修医手帳を用いて指導医・指導体制を評価する。

共通項目：初期研修中のアルバイトは禁止。